

結成50周年記念

恩 荷

第23号

2024年(令和6年)

11月29日

題字 栗 森 貢

おんが

男鹿市退職校長会

結成50周年を迎えて

会長 伊藤 章



結成50周年を迎え、半世紀という歴史の重みを55名の会員の皆様と共に分かち合えることを心より喜ばしく思いま

す。これまで本会の結成と発展にご尽力いただいた先輩諸氏に深い敬意と感謝を申し上げます。

本会は昭和49年（1974年）、県退職校長会が個人加入から都市単位の連合体へと組織変更されたことを契機に発足し、初代会長には故渡部英氏が選任されました。当初の会員数は不明も、翌年には会費納入者が24名だった記録が残っています。しばらくの間、玄友会と共に事業を進めていましたが、昭和62年には単独で総会を開催し、会則

も整備して本格的にスタートしました。

以来、「身の丈に合った活動」を基本理念とし、会員同士や現職校長先生とのつながりを大切にしながら、小規模な組織ならではの特性を生かした懇親会や研修会、厚生活動等を充実させてきました。

発足当時の旧若美町を含む男鹿市内中学校数は小学校17校、中学校11校、児童生徒数は7800名以上、教職員数は約500名を数えました。事務職員や養護教諭の未配置校もあり、時代の変遷を感じさせますが、どの学校も子どもたちの歓声と活気で満ち溢れていました。

多くの会員が中堅教員や青

年教師として活躍され、または教員を目指し勉勵されていた時代でもありました。

一方で、第二次ベビーブーム期とは言え、半島北部では過疎化・少子化が進んでいました。そのため、少子化による学校統合が昭和50年代半ばに始まり、平成に入るときに少子化が進行したことで、学校統合の動きは一層加速し、現在も続いています。今年度の小中学校数は8校、児童生徒数も約1000名にまで減少しています。

時代の変化は、しばしば学校に予期せぬ試練をもたらしてきました。問題行動の頻発いじめ・不登校、多様な価値観の台頭、新型コロナのパン

デミック、中学校部活動の地域移行などがその一例です。その都度、歴代の校長先生方は決してめげず、保護者や地域、教育委員会と連携を図り、不易と流行を見極めながら、「学校の日常」確保に尽力されてきています。私たちも、教職を退いたとは言え、引き続き、学校の応援団として微力ながらお役に立てられれば光栄と思うところです。

今後、学校統合や定年延長、ライフスタイルの多様化により、新入会員や事業参加者の減少が予想されます。しかし、皆様の知恵をお借りしながら、持続可能な会運営を目指していきたいと考えています。そのためにも、親睦を深め、共に学び合い、健康を気遣い合いながら、生きがいを彩る魅力ある場を提供することが一層重要だと感じています。

最後に、進取の気性で多くの今日的教育課題解決に邁進されておられる現職の皆様からエールを送ります。



結成50周年に寄せて



結成50周年を祝して

男鹿市教育委員会
教育長 鈴木 雅彦

男鹿市退職校長会結成50周年、誠におめでとうございます。半世紀にわたる歴史を紡いでこられた諸先輩方のご尽力に対し深甚なる敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

また、昭和49年4月の結成当初から、本市の学校教育、社会教育の推進、振興のためにご支援を賜り、深く感謝いたします。

さて、少子高齢化の加速度的な進行や先端科学技術の急速な高度化などにより社会が大きく変化する中、学校教育もICTを基盤とした「令和の日本型学校教育」の構築等、かつてない大きな転換点にあります。こうした社会の変化や新たな教育の潮流を踏まえ、本市の全小・中学校では、「学力の向上」「コミュニティ・スクールを核とした学校と地域との連携による学校づくりと地域づくり」「男鹿に特化したキャリア教育の推進」の3つを重点に据えて取組を展開しています。この取組を進めることにより、将来にわたってふるさと男鹿を思い、様々な面で男鹿を支えていく人材の育成につながっていくことを期待しています。

本会におかれましても、男鹿市の未来を担う子供たちが心豊かにたくましく成長できるよう、一層のお力添えをいただければ幸いです。

結びに、男鹿市退職校長会が、次の60周年、70周年、そして、その先も歴史を積み重ねながら更なる発展を遂げられますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



大先輩の先見の明

秋田県退職校長会
会長 伊藤 栄二

この度、男鹿市退職校長会におかれましては、めでたく結成50周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

秋田県退職校長会が結成される2年前の昭和42年に、男鹿市退職校長会の前身である「玄友会」が発足したとのことですが、これは男鹿の大先輩の校長先生方がいかに先見の明を持ち合わせておられたかを物語っています。

現職時代から素晴らしい教育実践を重ねられ、校長として各校において力強いリーダーシップを発揮された皆様が、半世紀にわたり教育指導・学校経営の核心を脈々と引き継いで来られたということであり、その重さに心より敬意を表します。

男鹿地区の大きな魅力は、豊かな自然と伝統文化の観光資源にあると思います。私事で恐縮ですが、かつて門前の漁師旅館「親栄館」で毎年のように「宿泊研修」が行われ、大先輩の先生方から教育論を伺ったものでした。男鹿のM先生や現会長の伊藤章先生、S先生などに案内され、秋田のH先生、由利本荘のS先生などに交じって私も参加させていただきました。夕食のお膳に溢れんばかりに盛られた海の幸と「鯛の骨酒」はまさに絶品で、舌鼓を打ちながら頂いたことを懐かしく思い出します。

男鹿市退職校長会のさらなるご発展と貴会会員の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げ、結成50周年に当たってのお祝いの言葉といたします。

結成50周年に寄せて



結成50周年に思う

男鹿市退職校長会
顧問 佐藤 磯 男

本会が結成されてから、50年経過しました。私は19年前に入会しましたが、当時は私を担任して下さった恩師や、職場の上司として指導して下さった方が会を運営されており、かなり緊張して総会に参加した記憶があります。知識の豊かな先輩が多く、総会後の懇親会で多くのことを学ばせていただきました。猫の顔ほどの畑づくりしている私に、「土作り」「インゲンの種まき時期」「ジャガイモの芽かき」などを具体的に教えて下さいました。今でもその通りに作業しています。

会員になって3年目から事務局の一員として、本会にかかわってきました。当時は、「総会の開催」「叙勲祝賀会の開催」「物故会員への弔意」が主な事業でしたが、数年後から総会後に「研修の時間」を新たに加えました。これは「地域で活躍されておられる方々から学ぶ」ことを目的としたものですが、このことを通して私は地域に対する認識が一層深まったように思います。

さらに、「グランドゴルフ大会」も行事化される様になり、会員の親睦に大きく寄与することにもなりました。このように活動が充実してきていますが、今一番気がかりなことは会員数の減少です。私が会員になった頃は80名程おりましたが、今は約60名となりました。この後、学校数の減少に伴い、会員数もまた減少することが予想されます。この難題に真剣に取り組まなければならない時期にきていると思います。



新たな時代に向けて

男鹿市校長会
会長 加賀谷 正 人

男鹿市退職校長会結成50周年、誠におめでとうございます。本会誌への寄稿にあたり、男鹿市校長会のあゆみと現状に触れさせていただきます。

男鹿市校長会の会則は昭和30年4月1日に施行され、この会則に基づく男鹿市校長会は今年度で結成69年を数えます。昭和30年当時、男鹿・若美両地区での学校数は小学校17校、中学校12校。令和6年度の小学校は6校、中学校は2校。来年度は北陽小、払戸小の閉校に伴い、小学校は4校となり、男鹿市校長会の会員数は6名となります。

勤務校である船越小の改修工事にあたり校長室の書棚を整理した際、校長会誌「潮ざい」を見つけました。その巻末には第1号が昭和47年に発行されたこと、「潮ざい」の由来について記載され、そこには、～前略「その中に男鹿市教育の姿を見、みち潮のたぎりたつようにみんなで共通の目標を求め、人間が共に肌と肌とをぶっつけ合い、共に悩み励ましあうところにこそ男鹿市教育の将来が展望される」とあります。当時の校長先生方の熱い思いが伝わってきます。

男鹿市校長会は平成30年4月、潟上南秋校長会と統合し、男鹿潟上南秋校長会として今日に至っています。男鹿市校長会は、男鹿潟上南秋校長会の一員として活動するとともに、男鹿市教育委員会と緊密に連携しながら、男鹿市教育の発展のため、これからも時代に即した役割を果たしてまいります。男鹿市退職校長会の皆様の変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

男鹿市退職校長会のあゆみ ダイジェスト

- 昭 42.11 玄友会結成 初代会長 石井興太郎氏
 昭 44.10 秋田県退職校長会結成総会
 昭 49.04 男鹿市退職校長会結成 初代会長 渡部英氏
 昭 55. 玄友会研修会 近谷篤馬氏講話
 昭 56.10 玄友会研修会 市長 吉田金忠氏講話
 昭 57.10 玄友会研修会 現職校長 嵯峨啓孝氏発表
 昭 58.04 市退職校長会 2代会長 石川正雄氏
 昭 58.10 玄友会研修会 現職校長 加藤鐵也氏講話
 昭 58.10 県退職校長会秋季研修大会 佐藤博氏発表
 昭 59.10 県退職校長会10周年記念式典
 昭 61.10 玄友会研修会 市長 菅原慶吉氏講話
 昭 62.06 市退職校長会 初めて総会開催
 昭 63.10 玄友会研修会 現職 澤田石美津男氏発表
 平 01.10 県退職校長会20周年記念式典
 平 02.06 市退職校長会 3代会長 渡辺徹氏
 平 02.10 県退職校長会秋季研修大会 嵯峨啓孝氏発表
 平 06.10 玄友会研修会 明石祐二氏(男鹿南中)発表
 平 06.10 県退職校長会秋季研修大会 戸田賢衛氏発表
 平 07.10 玄友会研修会 安藤松治郎氏(鹿山小)発表
 平 08.05 市退職校長会 4代会長 嵯峨啓孝氏
 平 08.10 玄友会研修会 泉津太郎氏(船越小)発表
 平 09.10 玄友会研修会 及川清氏(脇本第二小)発表
 平 10.10 玄友会研修会 高野裕之氏(男鹿東中)発表
 平 10.10 県退職校長会秋季研修大会 石垣禮之輔氏発表
 平 11.10 玄友会研修会 内田哲雄氏(男鹿北中)発表
 平 11.10 県退職校長会30周年記念式典
 平 12.10 玄友会研修会 安田幸子氏(船川南小)発表
 平 13.10 玄友会研修会 小笠原守子氏(椿小)発表
 平 14.10 玄友会研修会 三浦正光氏(男鹿南中)発表
 平 14.12 近藤貢太郎氏 勲四等瑞寶章(教育功労)受賞祝賀会
 平 15.03 市退職校長会会報「恩荷」第1号発行
 平 15.07 江畑巳代治氏 瑞宝双光章(教育功労)受賞
 平 15.10 玄友会研修会 高田和男氏(五里合中)発表
 平 15.10 県退職校長会秋季研修大会 小坂孝彦氏発表
 平 16.10 玄友会研修会 三浦豊彦氏(北陽小)発表
 平 17.06 片岡菊二氏 瑞宝双光章(教育功労)受賞祝賀会
 平 17.10 玄友会研修会 新田清志氏(男鹿東中)発表
 平 17.12 佐藤誠諸氏 瑞宝双光章(教育功労)受賞祝賀会
 平 18.05 市退職校長会 5代会長 小玉啓太郎氏
 市退職校長会研修会 西村隆氏(脇二小)発表
 平 19.07 小坂孝彦氏 瑞宝双光章(教育功労)受賞祝賀会
 平 19.10 玄友会研修会 浅井繁樹氏(払戸中)発表
 平 20.10 玄友会研修会 石田聰氏(五里合小)発表
 平 21.10 玄友会研修会 齋藤周氏(瀧西中)発表
 平 21.10 県退職校長会結成40周年記念式典
 平 22.07 明石祐二氏 瑞宝双光章(教育功労)受賞祝賀会
 平 22.10 玄友会研修会 泉津太郎氏発表
 平 22.10 県退職校長会秋季研修大会 佐藤磯男氏発表
 平 23.10 玄友会研修会 工藤絹子氏(野石小)発表
 平 24.04 市退職校長会研修会 講師 市教育長 杉本俊比古氏
 平 24.07 小玉啓太郎氏 瑞宝双光章(教育功労)受賞祝賀会
 平 24.10 玄友会研修会 佐藤磯男氏発表
 平 25.04 市退職校長会研修会 講師 学教課長 鈴木雅彦氏
 平 25.06 第1回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 武内庸氏
 平 25.10 玄友会研修会 進藤吉彦氏(男鹿北中)発表
 平 26.04 市退職校長会 6代会長 佐藤磯男氏
 市退職校長会研修会
 講師 秋田魁新報社男鹿支局長 安藤伸一氏
 平 26.06 第2回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 内田哲雄氏
 平 26.10 玄友会研修会 伊藤章氏発表
 平 27.05 市退職校長会研修会
 講師 天野芳太郎顕彰会世話人代表 高桑繁氏
 平 27.06 第3回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 原田孝明氏
 平 27.10 玄友会研修会 沢木裕氏(瀧西中)発表
 平 27.10 県退職校長会秋季研修大会 伊藤章氏発表
 平 28.05 市退職校長会総会 会費 5,000 円に値上げ
 研修会 講師 県国際美術家協会会長 鎌田俊夫氏
 平 28.06 第4回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 三浦豊彦氏
 平 28.10 第50回玄友会記念講演会
 講師 里暮らし体験塾 福留純枝氏
 平 29.05 市退職校長会研修会
 講師 珈音合同会社代表 佐藤毅氏
 平 29.06 第5回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 浅井繁樹氏
 平 29.10 玄友会研修会 浅井繁樹氏発表
 平 30.05 市退職校長会研修会
 講師 市観光文化部観光課 五十嵐祐介氏
 平 30.07 第6回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 三浦豊彦氏
 平 30.07 小松一夫氏 瑞宝双光章(教育功労)受賞祝賀会
 平 30.10 玄友会研修会 木村守人氏(男鹿東中)発表
 令 01.05 市退職校長会研修会 講師 市教育長 栗森貢氏
 令 01.06 第7回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 浅井繁樹氏
 令 01.10 玄友会研修会 近藤貢太郎氏発表
 令 01.10 県退職校長会結成50周年記念式典
 令 02.06 市退職校長会 7代会長 伊藤章氏
 市退職校長会研修会
 講師 市菅江真澄研究会事務局長 泉明氏
 令 02.07 第8回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 三浦豊彦氏
 令 03.05 市退職校長会研修会
 講師 市食生活改善推進協議会長 三浦愛子氏
 令 03.06 第9回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 伊藤章氏
 令 04. 市退職校長会総会 書面決議
 令 04.04 角崎義正氏 瑞宝双光章(教育功労)受賞
 令 04.06 第10回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 佐藤弘氏
 令 05.04 市退職校長会研修会
 講師 榊おか代表取締役 鈴木剛氏
 令 05.06 第11回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 伊藤章氏
 令 05.10 玄友会研修会 佐藤和久氏(船一小)発表
 令 05.10 県退職校長会秋季研修大会 浅井繁樹氏発表
 令 06.04 市退職校長会結成50周年記念研修会
 講師 大瀧村干拓博物館 館長 船木信一氏
 「男鹿市退職校長会のあゆみ」 発刊
 令 06.06 第12回グラウンド・ゴルフ大会 優勝 浅井繁樹氏
 令 06.10 玄友会研修会 八柳知徳氏発表
 令 06.11 天野実氏 瑞宝双光章(教育功労)受賞



結成50周年記念研修会

演題 「男鹿・大潟の生き物最前線」

大潟村干拓博物館館長 船木信一氏



のため、餌を求めてきて里に下りてきていると捉えている。温暖化と関連して確認され始

◆ 男鹿の海での生き物の変化

男鹿の海は対馬海流が流れてきているため比較的暖かい海である。しかし、温暖化の影響で、最近ではこれまでいなかった魚も釣れるようになってきている。高級魚のアマダイやキダイ、10kgクラスのブリ、昔は珍しかったカンパチやヒラマサなどである。また、30kg未満は捕獲できないとする漁獲規制により、大きく成長したホンマグロも、今では船で5分位の樺沖でも釣れている。さらに、エソやケンサキイカ・タチウオも獲れるようになってきている。貝紫のパール腺を持つアカニシも、船川付近で網に入ってくるようになってきている。南方の魚であるフエフィダイも釣れるなど、男鹿の海では激しい変化がみられる。

一方、逆に減っているのは冷たい水の中に住むサケ科の魚で、特にシロザケは全国的に減ってきている。ハタハタの漁獲減少は男鹿にとって死活問題である。ハタハタは沿岸の藻場を産卵場所として

いる魚である。しかし、沿岸の水温が13度以下にならないために、本来の産卵場所に産卵できない状況が起きている。そのため、産卵体勢のハタハタは沖合で産卵してしまう。産んだ卵は藻がない沖合で海流に流され、そのうちに他の生き物たちに食べられる。そして、結果的にハタハタの数が減少しているのである。

◆ 大潟の生き物の変化

大潟村は野鳥の楽園と呼ばれるほど多くの鳥が飛来する。ハクガンもその仲間であるが、一時的には日本に飛来しなくなっていた。それは、明治以降の乱獲が原因であった。その後、個体数を増やす試みにより改善され、今では日本に渡ってくるハクガンは2千羽位まで増えている。そして、その殆どは大潟村で越冬している。

大潟村は新しい土地で陸上の生き物の変化がとても激しいところである。今朝も生態系公園のすぐ近くでクマが発見されている。クマは餌のブナの実等が極端な不作

めているのが二ホンジカである。今のところ確認されているのはオスだけではあるが、今後繁殖が確認された場合は、農作物に大きな被害が心配される。また、ハクビシンも普通に見られるようになってきている。果樹などへの打撃が心配されるほか、人家に住み着くので家の中が大変なことになる。さらに、まだ公表はされていないがアライグマも確認されている。ハクビシン以上に凶暴で害をもたらす動物である。

絶滅したと考えられていたものが見つかった例もある。それは八郎潟固有のタナゴである。現在、大潟村では用水路や放水路を大改修する国営事業が始まっている。しかし、干拓前の生き物が生息している可能性がまだ残る大潟村である。今後もしこれらの生き物を守っていくかなければならないと強く思っている。

◆ 風力発電所の生き物への影響

男鹿では現在、風力発電所の建設計画が北部陸上と洋上にある。

しかし、建設による生き物への影響については、未だしっかりとした調査は行われていない。

以前、秋田港で稼働中の洋上風力発電所近くで調査したことがある。そこでは耳を塞ぎたくなくなるような大きな音が出ていて、その音は水中にもかなりの大きさを伝わっていた。魚群探知機で調べると、普通に泳いでいた魚の群れが、大きな音がでると急に底に移動して、じっとして動かなく現象が見られた。それは魚がイルカに怯えてとる行動と同じであった。音は秋田港から5km程離れた出戸浜の水中でもはっきり確認できた。

海の中に新しい施設ができると、藻が生えて魚が集まる漁礁効果がある。確かに洋上風力発電所の基礎部分でも周囲5m位は魚だらけであった。しかし、洋上風力発電所では一定の範囲に立入規制が設けられ、漁師も近づくことはできない。そのため、多くの洋上風力発電所ができた場合、発電所付近に魚が集まることで、現在の沿岸漁場の漁獲減少が心配される。

今後、再生可能エネルギーへのシフトは必要である。しかし、生き物等への影響調査をせずに建設を急ぐことには危惧感がある。

50th Anniversary

新会員から

日々の暮らしの中で

佐藤 和久



学校現場を離れ、数年間手付かずのままだった実家に係ることに取りかかり、数ヶ月になります。実家仕舞いはじめ、複数の事柄が同時進行中です。お陰様でと言うべきか、現役時のスラックスは緩くなりました。

その同時進行の過程では、私たち依頼主の要望と疑問に的確に答えてくださる幾種もの「〇〇士」や昔からお付き合ひのある寺社、市民生活に関わる行政の窓口、民間の事業所など、改めて社会を支えている方々・機関のありがたさを痛感することが多々あります。とりわけ、私たちの困り感を察してか、先手で解決に向けた複数の選択肢を提示していただいた時には、胸を撫で下ろし、頭が下がるばかりです。

学校現場では、子ども・保護者への支援の場面で「寄り添う」という言葉を見聞きし、自らも発してきました。「寄り添う」には、相手の心情や言動の意味・生まれた背景などをよく理解し、時には思いを馳せて想像することをスタートとし、共に歩むことが大切と先輩に教えていただいたことを思い出します。

日々の暮らしの中で、多くの方々からの「寄り添う」を受けながら自身の現役時を振り返ると、その不確からしさの数々に恥ずかしくなるばかりです。

*新しく会員として参加させていただく男鹿市退職校長会は、結成から50年になります。諸先輩方からご助言をいただき、親しく活動できればと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

会員の交流広場

50th Anniversary

◆ 男鹿市船川港 三浦 正光

還暦を祝う同級会に招かれた。人生の3分の2に到達した生徒たちの成長が楽しみだった。

これからの仕事・家族・趣味・介護等への期待や不安もあったが、思った以上に明るく前向きな老後への抱負に安心した。

会の結びは「若者に負けるな」という温和だった生徒のシユプレヒコールで解散した。久しぶりに元気をもらった会合だった。

◆ 男鹿市五里台 加藤 牧子

今年の夏は、熱中症対策を口実に、涼しい部屋で読書に親しみました。本の世界に浸っていると、頭も心も活性化してくるのが分かります。その勢いに乗ってかどうか定かではありませんが、この度フットケア・セラピストの資格を取得しました。意外な展開に我ながら驚いています。

◆ 秋田市飯島 木村 守人

今年度は城東中学校で24時間の非常勤講師をしています。主に中1と中2の数学を担当しています。週4日間勤務で20時間の数学に教

材研究が4時間ですので、ほぼ毎日空き時間もなく授業に専念している状況です。職員室には戻る余裕もなく教室から教室へと渡り歩いています。秋には初孫が見られることを励みに、1年間何とか無事に責任を果たしたいと思っています。

◆ 男鹿市船川港 佐藤 和久

数ヶ月前に学生時代のサークルの同級仲間がグループLINEで繋がりが、トークで盛り上がりつつあります。思い出話から仕事、健康、実家仕舞い、推し活など話題も様々です。鳥海山の画像を送ると、山形からは「こちらは鳥海山が見えると2日後に雨が降ると言うよ」との返信あり。空も先人の言い伝えも繋がっています。

◆ 男鹿市脇本 天野 昌子





会員の交流広場

50th Anniversary

◆ 五城目町 八柳 知徳
八月

念入りに歯磨きする朝、盃蘭盆会
花満つる蓮池眺め同期会
空蟬の軽ろき字ぶ生きる様
今日もまた天の炎帝容赦なく
新盆の仏壇清め風招く

九月

「八郎」のものがたり聴く秋日和
たも綱にヌカエビ躍る湯の秋
秋空にとけ入る歌声文化祭
ちろろ鳴く今日も日差しは強かる
に
竜胆を一束供へ朝の経

◆ 男鹿市船川港 今津谷 勉

東日本大震災の痕跡と復興
東北スポーツ推進委員研修会が
7月12日〜13日、石巻市を主会場
に開催された。行政による整備計
画のもと海浜は公園として生まれ
変わっていたが、遺構として小学
校が当時のままで保存されていた。
陸前高田の奇跡の一本松を目前に
して、改めて津波の恐ろしさを痛
感した次第である。

南三陸町に足を延ばしたが、仮
設市場が大勢の人で賑わい活気を
呈していたことが嬉しかった。

◆ 五城目町 一関 隆則

高校の修学旅行以来45年ぶりの
再会、奈良の大仏。結構よく撮れ
たかなと自画自賛しております。



◆ 潟上市天王 小野 久子

少々億劫だったけど久しぶりの
結婚式に出席。千葉に住む姪の長
女で、外国で脳科学の勉強をし続
けたあの子。「博章おじさんとは
お友達」と何でも話していたら
しい。3月カナダの方と結婚。

この度、地元のホテルで純日本
風の式をしたとのことから白無
垢姿・美しい着物。主人がいた
らどんなに喜んだことだろうと
涙しながら別社会にいる私だった
親戚やカナダからの人など50名ほ
どの参加の中で二刀流の会話、
英語学習は好きだったけれど会話
もできず。しかし、両親は堂々と

した英語力(姪は英語科卒:さす
が)を發揮していたことに誇りを
感じた。

この先の世の中のことをいろい
ろ考えていた。「まあ、人生終り
に近い私は英語どころか、秋田弁
だけで。」

猛暑の今年。皆さんから元気を
もらい満足して帰路に着いた。

—夏の思い出から—

◆ 男鹿市船越 伊藤 章

コーヒーを愛飲して久しい。
特に、朝一番のルーティンとして
淹れる一杯の味は格別だ。

豆は近所のスーパーで購入する
「当店人気No.1」。安価なブレンド
品だが、かつてこだわっていた
銘柄と比べても、香りや味に遜色
はない。水は滝の頭の湧水が手に
入れれば最高だ。

起床後はレギュラー、10時と3
時はインスタントと1日3杯、猛
暑でもホットで飲む。

いつか、友人であるコーヒーハ
ンター川島良彰氏が提供する一杯
1万円のコーヒーを堪能してみたい
と思っています。

ノーコーヒー、ノーライフ。

◆ 潟上市天王 船木 和則

2024年4月、日本郵船(株)
と日本海洋事業(株)の協働で、洋
上風力発電の総合訓練センター
「風と海の学校あきた」が設立さ
れました。

現在、船員や作業員向けに日々
講習を行っております。地域創生
に少しでも貢献できればと思ひ頑
張っているところです。

◆ 秋田市 根本 温子

俳句 良夜

フキノトウ五十年前の秘話を聞く
すきとほる眼底まぶたに海桜鯛
花嫁は金髪まげの姪額の花
棚いっぱいレモン下がりて地中海
親切を受けしこと想ふ良夜かな
ソプラノのことさら澄みし冬の月

◆ 男鹿市払戸 木元 正子



50th Anniversary

会員の交流広場

◆ 男鹿市角間崎 角崎 義正

年をとったなあ、と思うことが多くなった。妻から言われたことも、最初の一つはどうか守るが、二・三番目のことは頭に残っていない。自分で忘れていながら腹を立てることもある。ガンコじいではない。

脚力はまだいいようだ。ウォーキングで自然の豊かさを感じ、畑仕事で野菜の成長を楽しむ。心豊かな老人で、今日一日を楽しもうと思っている。

◆ 男鹿市船越 遠藤 康子



◆ 男鹿市北浦 三浦 豊彦

旭水を眺めていたら山澄静子さんの名前が目にとまった。男鹿の先生と6人で二セコスキー場を指した方だ。

特に、山澄・村山廣樹・三浦の

3人でスキーを担ぎ、二セコ山頂を目指したことが印象深く思い出される。山頂付近で振り返り、眼前に広がる華麗な光景に息を飲み、疲れも吹き飛んだ。

蝦夷富士の名に違わぬ羊蹄山高くてびえる優美さは、50年を経た今でも鮮やかに脳裡に甦ってくる。

◆ 男鹿市角間崎 角崎 紘二

年齢81才、さすがに体力・気力に衰えを感じる今日この頃です。高齢野球にも参加することなく、専ら観戦・応援するだけです。とは言いつつ週2日はまだ勤めております。来年6月の任期まで続けたようと思っています。

今後は一日の計画をしつかり立て、生まれてきたことに感謝して充実した生活を送るよう努力します。妻・子・孫と仲良くして平穏に一日を過ごしたいと願っています。

◆ 秋田市 畠山 勇市

健康維持のため、朝晩犬の散歩をしたり、ゴルフをしたりしている。散歩の時は、ごみ拾いもついでにしている。

でにしている。ゴルフでは、5月になんとホールインワンを達成した。先日、記念コンペを実施し、仲間と喜びを分かち合い、夜には美酒に酔いしれた。これからも適度に体を動かし、食事にも気を付けながら、健康維持を図っていきたい。

小林 彬實 私もまもなく85歳になります。今は主人と共に羽立の「康楽荘」にお世話になりながら元気に過ごしております。月曜日は義妹が私を「男鹿の卓球クラブ」に連れて行ってくれます。そこで半日間、私より若い人達と卓球をし、汗を流して来るのも健康の支えになっています。

◆ 男鹿市船川港 小林 彬實

遠藤康子先生を中心とした絵手紙交換、そして今は編み物と毎日が短過ぎる感が致します。

◆ 井川町 三浦 喜博

Ready to Go! 6月に井川町の町民体育大会に参加しました。レクリエーション的な種目が中心の誰でも参加できる運動会となっています。その中

にあつて、「真剣勝負ー本気の50メートル走」に出場した私も60代の町内最速ランナーと認定されました。しかし、久々の全力疾走に筋肉がついてこれず、その後2週間ほどはポッコリの生活になってしまいました。やはり、日頃の備えは必要ですね。

佐藤 磯男 ユキホオジロ(ツメナガホオジロ科) スズメぐらいの大きさ。全体的に白く、清楚で美しい姿をしています。北極圏で繁殖し、冬季に北海道と本州北部の日本海側に少数渡来します。本県では入道崎で秋の終わりから雪が積もるまでにごく少数観察されています。

◆ 男鹿市船川港 佐藤 磯男

写真は 11月上旬 に入道崎で撮影したものです。





玄友会総会・研修会

50th Anniversary

玄友会総会・研修会 開催

研修発表「八郎湖の未来」

「はちろつプロジェクト」理事 八柳知徳氏



玄友会総会が10月4日、ハートピアで来賓・本会員（現職校長を含む）26名が出席して開催された。また、懇親会はオガールのレストランで開かれ、和やかな雰囲気の下で会員同士の親睦を深めることができた。

研修発表要旨

1 八郎潟から八郎湖へ

日本第2の広さを誇った八郎潟は、干拓で約1/5の面積の八郎湖になった。また、汽水であった八郎潟は、防潮水門の建設により淡水の八郎湖となり、水環境が大きく変化した。八郎潟はかつて水がきれいで水草がたくさん茂り、魚やシジミの多い豊かな湖であった。しかし、干拓により農地が広がり、増加した農業排水は、殆どが八郎湖の中で循環する状況となった。

2 八郎湖が抱える問題

昭和32年に始まった干拓は、その20年後の昭和52年に完成した。干拓途中の昭和39年には大潟村が開村している。広範囲なアオコ発

生は干拓完了後間もなく確認された。平成11年頃にはアオコによる水道水の異臭問題が発生した。平成13年、COD(化学的酸素要求量)の年平均値が全国湖沼ワースト5位になる。そこで、平成18年に県は「八郎湖環境対策室」を立ち上げる。同年、八郎潟町でアオコが上水道の取水口まで遡上して、断水となり大騒ぎになる。そして、COD年平均値で全国湖沼ワースト3位になる。

平成19年、指定湖沼に指定され、県は湖沼水質保全計画を策定して大々的な改善事業を開始する。水質保全計画は1期のスタートから今年で18年目、現在3期目である。これまでの事業で、八郎湖に流入する汚濁負荷量の低減など一部で成果があった。しかし、水質は依然として目標値や環境基準をクリアできない状況が続いている。

富栄養化により植物プランクトンのアオコの異常増殖が常態化し、その影響もあり沈水植物(モグ)は湖内では絶滅してしまった。

3 はちろつプロジェクト

定年退職した平成29年、熱心な勧誘を受けてNPO法人「はちろつプロジェクト」に加わり活動している。同法人は県の水質保全計画の中で、環境学習等を通じて住民等への水質保全意識啓発を担う団体であり、出前授業やモグリウムの設置に取り組んでいる。

モグリウムは絶滅した沈水植物の埋土種子を、大潟村の干拓前の地層から掘り出して復活させ、栽培している大きな水槽である。モグリウムでの水草栽培では、アオコを食べるミジンコ等が増え、次第に生態系が復元し、水生生物のにぎわいを生む効果が確認されている。現在は八郎湖周辺の小学校や高校、大学や公園、企業等15箇所に設置されている。

4 八郎湖の未来

八郎湖は今でも多くの生物が生息する豊かな場所である。しかし、より親しめる八郎湖に変えるためには、水草を増やして水環境を改善する取組と、その取組を次代を担う子ども達に確実に継承することが不可欠である。そして、その取組を次世代に順次繋げることで、かつての豊かな八郎湖の復元を未来に託したいと思う。

受章者紹介

瑞宝双光章

教育功勞

天野 実氏
令和6年11月3日

会員のご逝去

佐藤 松平氏
(令和5年11月27日)

武田 直氏
(令和6年1月6日)

心よりご冥福をお祈りします

グラウンドゴルフ大会

第12回グラウンドゴルフ大会が6月26日(水)に大潟村多目的広場で開催された。会員等12名が参加して4コース32ホールで熱戦を繰り広げた。

大会結果 (数字は打数)

優勝 浅井繁樹(75)

2位 伊藤 章(76)

3位 三浦豊彦(79)

4位 田沼隆夫(83)

5位 佐藤磯男(86)

ホールインワン賞(数字は回数)

伊藤 章① 三浦豊彦①

八柳知徳①

最優秀女性賞 遠藤康子

最高齢者賞 小山善愛